

## 【公開文書】

### 臨床研究「胸膜癒着が肺悪性腫瘍手術に及ぼす影響について」について

筑波大学附属病院呼吸器外科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

#### ① 研究の目的

肺は胸腔と呼ばれる胸の中に収まっています。胸腔の壁（壁側胸膜）と肺は、本来くっついていませんが、肺炎や胸膜炎などの炎症の波及により、くっついてしまうことがあります（胸膜癒着と言います）。この胸膜癒着が存在すると、肺を手術する際に胸膜癒着をはがす必要があります、その程度によって手術時間が長くなったり、出血量が増加したり、肺や周辺臓器等の損傷による合併症のリスクがたかくなったりします。これらのことは経験的には分かっていることですが、具体的にどの程度、胸膜癒着が肺の手術に影響しているかは分っていません。その理由は、胸膜癒着の状態が個々の患者さんによって異なっているため、胸膜癒着の状態を評価するのが難しかったことが挙げられます。本研究では、胸膜癒着の状態の評価する方法を作成し、その評価に基づいて、どのくらい胸膜癒着が肺の手術（肺癌や転移性肺腫瘍に対する手術）に影響しているかを調査します。

#### ② 研究対象者

2016年1月1日から2020年12月31日までに当院で肺癌、もしくは、転移性肺腫瘍で肺の手術治療を受けた患者さん

#### ③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2022年12月31日まで

#### ④ 研究の方法

胸膜癒着の状態を種類、強さ、範囲で分類を行い、胸膜癒着がなかった場合と比較して、手術時間、術中出血量、術後の合併症、術後在院日数を比較します。

#### ⑤ 試料・情報の項目（具体的に記載すること）

手術時年齢、性別、併存疾患（肺の病気：肺気腫、間質性肺炎、他）、過去の手術歴、術中所見（胸膜癒着の状態、皮膚切開の大きさ、手術時間、出血量、術中の胸膜癒着に伴う副損傷）、術後合併症、胸腔ドレーン留置期間、術後在院日数、術後の炎症所見（採血による白血球数、CRPの推移）

#### ⑥ 試料・情報の第三者への提供はありません

#### ⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学 臨床医学系 呼吸器外科 講師 小林尚寛

#### ⑧ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停

止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：呼吸器外科 担当 小林尚寛

電話：029-853-7991（対応可能時間：平日 9 時～17 時）